

2023 年 日本哲学会哲学教育ワークショップ

国際哲学オリンピック（IPO）と哲学教育

5 月 19 日（金）18:00～20:30

@早稲田大学戸山キャンパス

梶谷真司（東京大学）

【1】IPO について

IPO：<http://www.philosophy-olympiad.org/>

歴史・目的・参加資格・審査等：http://www.philosophy-olympiad.org/?page_id=2

IPO とは

世界中から高校生が集まり、哲学的なテーマについてエッセイを書いて競う国際大会

歴史

- ・1993 年に 6 カ国（ブルガリア、ルーマニア、ハンガリー、ポーランド、トルコ、ドイツ）の代表有志によって開始。
- ・第 1 回大会はブルガリアで開かれ、ブルガリア、ルーマニア、トルコが出場。
- ・以来、毎年 5 月、ホスト国を変えて国際大会を開催。近年は 40～50 カ国が参加。
- ・2000 年以降、国際哲学協会連盟（FISP）が後援、ユネスコが協賛。

目的

- ・各国の中等教育（中学・高校）における哲学教育の支援
- ・各国の国内予選への支援
- ・批判的・探究的・創造的思考力の育成
- ・科学や芸術や社会生活についての哲学的省察の促進
- ・現代世界の諸問題についての倫理的省察能力の育成
- ・哲学を通じた世界中の若者の交流の奨励

参加条件

各国高校生 2 人、教員 2 人まで。大会開催国は高校生 10 人まで。

教員は全員エッセイの審査を行う。

出場資格：高校生、20 歳以下（国内予選時に高校生であれば、大会時に大学生であってもよい）

エッセイライティング

- ・哲学者の言葉が 4 つ与えられ、その中から一つを選んで、関連するエッセイを書く。

課題文：http://www.philosophy-olympiad.org/?page_id=72

* 参考資料あり（課題文）

- ・制限時間は4時間、母語（公用語）以外の英、独、仏、西語のいずれかの言語で書く。
- ・語学の辞書のみ使用可。
- ・エッセイガイド：http://www.philosophy-olympiad.org/?page_id=1237

エッセイの審査

評価基準

①課題文のトピックとの関連性、②トピックについての哲学的理解度、③議論の説得力、④議論の首尾一貫性、⑤オリジナリティ

1点から10点で採点（7以上は0.5単位）。

- * 国・名前が分からないようにして、同じ国の教員が採点しないよう調整。
- * 採点基準について毎回ミーティングで確認・議論する。
- * 文法的なミスや多少の表現の稚拙さなど、語学力は評価の対象にはならない。
- * 課題文の典拠となる哲学者や哲学書のもともとの思想の理解は、評価とは関係ない。課題文の内容に沿っていればよい。
- * 哲学の専門的知識はあまり重視されない。用語や哲学者の名前を多用すると name dropping と言われ、自分の頭で考えてないとされ、かえって評価が下がることが多い。

1次審査：4名で査読。平均7点以上が2次審査へ。

2次審査：2名が査読。1・2次合計の平均に基づいて、3次審査へ行くエッセイを決める（25～30?）。

3次審査：運営委員会6名（FISP から会長と他2名、IC から3名）による審査。メダル、奨励賞の決定。2次審査までの成績は考慮しない。

その他のイベント

講演会、セミナー・ワークショップ（教員向けには哲学の教育法）、市内観光や見学ツアー、パーティ（初日、最終日前日、最終日）

IPO の特徴

・いろいろな人たちが対等になれる

ドイツ哲学、フランス哲学、分析哲学のような“本場”が問題にならないので、**国による有利・不利がない**。強豪国は、ドイツを除けば、本場でないところが多い（東欧、北欧が強く、非西欧圏ではトルコ、アルゼンチン、インド、韓国がメダルの常連国）。

・先生も高校生も仲がいい

参加国の引率教員の多くが毎年同じなので、同窓会のような雰囲気、ハグをして再会を喜ぶ。**Family**という言葉をよく使い、新しい参加国にも「ようこそ IPO family へ」と言ってすぐに仲間に入れる。それを見ているせいか、高校生たちもすぐに仲良くなる。先生が連れてきた生徒をお互いに紹介し合う。

・子どもたちの未来を考える

イベントの性格や、引率の教員の多くが高校の先生ということもあり、参加する先生

たちの関心は、哲学の研究や問題よりはむしろ子どもたちの“未来”にある。それも抽象的ではなく、**各国の具体的状況に根差した問題**と連関している（不安定な政情、政治的プロパガンダ、貧困など）。そうした社会問題への取り組みの中で、哲学に本気で希望を見出している。

【2】日本の参加と国内予選

参加の経緯

2001 年のアメリカ・フィラデルフィア大会から参加。

北垣宗治先生（同志社大学名誉教授・敬和学園大学学長・英文学）

延原時行先生（敬和学園大学教授・哲学）

以降、国内選考から大会参加まで、北垣先生が中心となって続けてきた。

2002 年には、IPO の要望を受けて第 10 回大会が東京で開催。

2006 年イタリア大会より林貴啓氏が参加。

2011 年、すでに 80 歳を超えていた北垣先生が、将来のためにもっとしっかりしたところに任せたいと考えていたところに、公益財団法人・上廣倫理財団が事務局および財政面での支援を引き受けた。哲学の専門的指導と代表選抜と国際大会への引率などの面で協力してくれる研究者ないし機関を探していて、ちょうど寄付部門を設置する予定であった東大の UTCP に協力を依頼。梶谷がメインで引き受ける。

2012 年より梶谷が参加。2018 年から榊原健太郎氏が参加。

* 審査は 2018 年まで北垣・林・梶谷、2019 年が榊原を加えた 4 人、2020 年から林・榊原・梶谷の 3 人。引率も現在はこの 3 人のローテーションで行っている。

国内予選

- ・倫理哲学グランプリ（9 月末締切） <https://jpe-gp.org/>

上廣倫理財団の事業。形式は IPO と同様、哲学者の言葉から自分で問題設定をしてエッセイを書く（日本語／参考資料あり）。9 月末日締切。実質的に国内予選を兼ねている。

* 参考資料あり（課題文・哲学エッセイを書くにあたって）

- ・代表選考会（2 月）

倫理哲学グランプリのメダリスト・入賞者が参加。英語でエッセイを書く（制限時間 2 時間 30 分）。上位 2 名が国際大会に参加。

選手の育成

- ・高校生のための哲学サマーキャンプ（毎年 7 月末～8 月初め 2 日間）

2012 年～2019 年：代々木オリンピックセンター／東大駒場キャンパス対面

2020 年～：オンライン（対面に戻す予定なし）

* 2021 年度までは財団の事業で UTCP が協力。2023 年度から UTCP のイベントとして開催。

1 日目：エッセイの書き方（2014 年から対話によるグループワークを導入）

2 日目：グループワーク

・代表選考会で日本代表となった 2 人にエッセイ指導

IPO の過去の課題文から自分で選んで本番と同様の条件（4 時間。語学辞書のみ使用可）で書かせて添削。

国際大会での日本の受賞歴

2007 トルコ・アンタルヤ 奨励賞

2014 リトアニア・ヴィリニウス 奨励賞

2016 ベルギー・ヘント 奨励賞

2018 モンテネグロ・バー 銅メダル

2019 イタリア・ローマ 銅メダル・奨励賞

2020 オンライン（スロベニア主催） 奨励賞

2021 オンライン（スロベニア主催） 銀メダル

2022 ポルトガル・リスボン 奨励賞

2023 ギリシャ・オリンピア 奨励賞

*当初私は、日本が入賞するには 10 年では足りないと思っていた。最近日本も入賞の常連国になりつつあるが、理由はあまりよく分からない。

【3】哲学教育と書くこと

学校での哲学教育

哲学の思想内容・概念

論理的・批判的思考

対話・討論

.....

→「書く」ことに重点が置かれていない？

IPO から見た哲学教育

書くこと＝思考を組み立てること

考えること←問うこと

サマーキャンプ：エッセイの書き方のトレーニング

問いによって材料を集める→材料を取捨選択する→ストラクチャーを組み立てる

（問題設定、論理性、説得力、意味の明確化、など）

グループでの対話の活用（アイデアの共有、多様な問いの発見、相互の問答）

*参考資料あり（別紙：パワポ配布資料「高校生のための哲学サマーキャンプ」）

*2019 年までは倫理哲学グランプリ（および IPO）に倣って、哲学者の言葉を題材

材にしていたが、2020 年以降オンラインになって「お金×倫理」「ルール×自由」

「インターネット×現実」のような二つのテーマをかけ合わせて題材にしている。

【4】考える楽しみを共有する

共に語り、考えることの楽しさの共有→**哲学によるコミュニティ**の形成

IPO でもキャンプでも、高校生たちは自分たちが考えていることを語り合い、分かち合うことを心から楽しみ、それを通して特別な仲間となる。

→**考える力と動機**を与える（考えたい！考えられる！）

哲学キャンプ

8 月：哲学サマーキャンプ（2012 年～）（2 日間）

ライティング&対話

12 月：哲学ウインターキャンプ（2020 年～）（1 日のみ）

レクチャー&ディスカッション

3 月：哲学スプリングキャンプ（2023 年～）（1 日のみ）

哲学ウォーク&ディスカッション

サマーキャンプも含めて、夜の対話の時間は夜中の 2 時～3 時（もっと遅くまで？）続く。

参考資料

国際哲学オリンピック 課題文

4 言語の訳が当日開始時に高校生に渡され、教員にもその後まもなく配布される。

Cf. http://www.philosophy-olympiad.org/?page_id=72

2016 年（ベルギー・ヘント）

1. “Spoken sounds are symbols of affections in the soul, and written marks symbols of spoken sounds. And just as written marks are not the same for all men, neither are spoken sounds. But what these are in the first place signs of – affections of the soul – are the same for all; and what these affections are likenesses of – actual things – are also the same.”

Aristotle, *De Interpretatione*, 16 a2.

„Nun sind die (sprachlichen) Äußerungen unserer Stimme ein Symbol für das, was (beim Sprechen) unserer Seele widerfährt, und das, was wir schriftlich äußern, (ist wiederum ein Symbol) für die (sprachlichen) Äußerungen unserer Stimme. Und wie nicht alle Menschen mit denselben Buchstaben schreiben, so sprechen sie auch nicht alle dieselbe Sprache. Die seelischen Widerfahrnisse aber, für welche dieses (Gesprochene und Geschriebene) an erster Stelle ein Zeichen ist, sind bei allen (Menschen) dieselben; und überdies sind auch schon die Dinge, von denen diese (seelischen Widerfahrnisse) Abbildungen sind, (für alle) dieselben.“

Aristoteles, *De Interpretatione*, 16 a2.

« Les sons émis par la voix sont les symboles des états de l'âme, et les mots écrits les symboles des mots émis par la voix. Et de même que l'écriture n'est pas la même chez tous les hommes, les mots parlés ne sont pas non plus les mêmes, bien que les états de l'âme dont ces expressions sont les signes immédiats soient identiques chez tous, comme sont identiques aussi les choses dont ces états sont les images ».

Aristote, *De Interpretatione*, 16 a2.

“Así, pues, lo que hay en el sonido son símbolos de las afecciones que hay en el alma, y la escritura es símbolo de lo que hay en el sonido. Y, así como las letras no son las mismas para todos, tampoco los sonidos son los mismos. Ahora bien, aquello de lo que esas cosas son signos primordialmente, las afecciones del alma, son las mismas para todos, y aquello de lo que éstas son semejanzas, las cosas, también son las mismas”.

Aristóteles, *Sobre la interpretación*, 16 a2.

2. „Nun spricht die moralisch-praktische Vernunft in uns ihr unwiderstehliches Veto aus: Es soll kein Krieg sein; weder der, welcher zwischen Mir und Dir im Naturzustande, noch zwischen uns als Staaten, die, obzwar innerlich im gesetzlichen, doch äußerlich (im Verhältnis gegen einander) im gesetzlosen Zustande sind; denn das ist nicht die Art, wie jedermann sein Recht suchen soll.“

Immanuel Kant, *Die Metaphysik der Sitten* (1795).

“Now morally practical reason pronounces in us its irresistible veto: There is to be no war, neither war between you and me in the state of nature nor war between us as states, which, although they are internally in a lawful condition, are still externally (in relation to one another) in a lawless condition; for war is not the way in which everyone should seek his rights.”

Immanuel Kant, *The Metaphysics of Morals* (1795).

« La raison moralement pratique énonce en nous son veto irrésistible : il ne doit y avoir aucune guerre, ni celle entre toi et moi dans l'état de nature, ni celle entre nous en tant qu'États, qui, bien qu'ils se trouvent intérieurement dans un état légal, sont cependant à l'extérieur (dans leur rapport réciproque) dans un état dépourvu de lois – car ce n'est pas ainsi que chacun doit rechercher son droit ».

Emmanuel Kant, *Métaphysique des mœurs* (1795).

“La razón moralmente práctica pronuncia este veto irresistible: No debe haber ninguna guerra, ni entre tú y yo en el estado natural, ni entre nosotros como Estados qui, constituidos legalmente en nuestro interior, estamos, sin embargo, en un estado extra-legal exteriormente (en nuestras mutuas relaciones), porque el derecho no debe buscarse por medio de la guerra”.

Immanuel Kant, *Metafísica de las costumbres* (1795).

3. « On ne naît pas femme, on le devient ».

Simone de Beauvoir, *Le Deuxième sexe* (1949).

Veillez discuter de manière critique et selon vos propres arguments la manière selon laquelle sexe et genre sont ici esquissés et caractérisés.

“One is not born, but rather becomes, a woman.”

Simone de Beauvoir, *The Second Sex* (1949).

Discuss critically, using your own arguments, the manner in which sex and gender are outlined and characterized here.

„Man wird nicht als Frau geboren, man wird es.“

Simone de Beauvoir, *Das andere Geschlecht* (1949).

Diskutieren Sie kritisch mit Ihren eigenen Argumenten die Art und Weise, wie hier Geschlecht und Gender skizziert und charakterisiert werden.

“No se nace mujer, se llega a serlo”

Simone de Beauvoir, *El segundo sexo* (1949).

Discuta críticamente y con su propios argumentos cómo la autora delinea y caracteriza aquí sexo y género.

4. “Environment is the moment that objectifies human existence; but by so doing, the human understands him/herself. We can call it self-discovery through one’s environment.”

Tetsuro Watsuji, *Fûdo* (1935).

„Die Umwelt ist dasjenige Moment, welches die menschliche Existenz objektiviert. Aber, wenn dies geschieht, versteht der Mensch sich selbst. Wir können dies ‚Selbstentdeckung durch die eigene Umwelt‘ nennen.“

Tetsuro Watsuji, *Fûdo* (1935).

« Le milieu est ainsi pour l’existence humaine le moment qui l’objective elle-même, mais en cela justement, c’est derechef lui-même que l’humain entend. Cela, on devrait l’appeler la découverte de soi au sein du milieu ».

Tetsuro Watsuji, *Fûdo* (1935).

“El medio ambiente es entonces el momento en que la existencia humana se objetiva a sí misma; pero por ello y a partir de ahí, el ser humano se entiende a sí mismo. Podemos llamarle el autodescubrimiento de sí en el medio ambiente”.

Tetsuro Watsuji, *Fûdo* (1935)

倫理哲学グランプリ 課題文

2014 年

- ① 私の一生の短い期間が、その前と後との永遠のなかに〈一日で過ぎて行く客の思い出〉のように呑み込まれ、私の占めているところばかりか、私の見るかぎりのところでも小さなこの空間が、私の知らない、そして私を知らない無限に広い空間のなかに沈められているのを考えめぐらすと、私があそこでなくてここにいることに恐れと驚きとを感じる。なぜなら、あそこでなくてここ、あの時でなくて現在の時に、なぜいなくてはならないのかという理由はまったくないからである。(パスカル『パンセ』)
- ② ますます複雑になる国家社会の枠内で、個人としての各々の人間が狭く密接に結びついた近代国家以前の保護集団から離れ去るにつれて、彼らは増加する選択肢の前に立たされることになる。各々の人間は選択のより大きな余地をもつことになる。彼らはより多く自分自身のために決定を下すことができる。しかしながら、彼らはまたより多く自分自身のために決定を下さなければならないのである。彼らは自分で判断できるのみならず、またより多く自分で判断しなければならないのである。この点においては、彼らは選択することができない。(ノルベルト・エリアス『諸個人の社会』)
- ③ 私がどれほど強烈な経験をしようと、自己の内部には、あたかも経験を共有せずただ観察しているだけの見物人といった部分があり、それが批判の目を向けているのを感じるのだ。(H. D. ソロー『森の生活』)
- ④ 個人主義と利己主義とは厳しく区別しておかねばならぬ。利己主義とは自己の快樂をほしいままにするということはかえって個人性を没することになる。[...] また人は個人主義と共同主義と相反対するようにいうが、余はこの両者は一致するものであると考える。一社会のなかにいる個人が各十分に活動してその天分を発揮してこそ、はじめて社会は進歩するのである。個人を無視した社会は決して健全なる社会といわれぬ。(西田幾多郎『善の研究』)

2016 年

- ① 善なる意志は、それが引き起こし成し遂げることによって善なのではなく、またそれがある目指された目的の達成にとって有用であることによって善なのでもない。それはただ、その意志の働きのみによってのみ善なのである。(イマヌエル・カント)
- ② 私たちが把握できるのは、私たち自身が作り上げた世界だけである。(ニーチェ)
- ③ [...] 普通は自分というものを、名前とか肉体とかと同一視して、自分とは誰それ、あるいはこの肉体であると思っていますが、自己性の謎とはそのことではなくて、そう思っているところのこの自分とは何か、その自分が謎だということです。自分は誰それだとか、この肉体だと思っている「この自分」とはいったい誰なのか。これは絶対的な主語ですね。肉体とか名前とかは述語であり、属性ですから、何でもいいんです。けれど

も、この絶対的な主語とは何なのか。これが哲学的な自己の謎です。[...] そのわからない誰でもない自分が、しかしここで某をやっているのは、なぜなのか。誰でもない自分が、某としてこの肉体をやっているこのおかしさ。これは何なのか。（池田晶子）

- ④ うその中にうそを探すな
 ほんとの中にうそを探せ
 ほんとの中にほんとを探すな
 うその中にほんとを探せ （谷川俊太郎）

2018 年

- ① 歴史家は実際に起こったことを語るが、詩人は起こりうるようなことを語る。それゆれ、詩作（ポイエーシス）は、歴史（ヒストリアー）よりもいっそう哲学的であり、いっそう重大な意義をもつものである。というのも、詩作はむしろ普遍的な事柄を語り、歴史は個別的な事柄を語るからである。 （アリストテレス）
- ② 戒律は、我々に様々な善行を教え、規定するが、それによって善行は生じない。（中略）人が何をなすべきかを教えるが、それを実行する何らの力も与えない。だから戒律があるのは、人間がそれによって善に対して無力なことを知り、自分自身に絶望することを学ぶためなのである。 （マルティン・ルター）
- ③ 哲学においても他の場合でも、問題を解決することよりも、問題を見いだすこと、したがって問題を提起することの方が肝心である。 （アンリ・ベルクソン）
- ④ 最も特殊なるものが最も普遍的な意義価値を有するということは、何も芸術の作品に限ったことではない。 （和辻哲郎）

2020 年

- ① 一人一人の人間がもっている、真理を知るための力と各人がそれによって学び知るところの器官とは、はじめから魂のなかに内在しているのであって、ただそれを――あたかも目を暗闇から光明へ転向させるためには、身体全体と一っしょに転向させなければ不可能であったように――魂全体と一っしょに生成流転する世界から一転させて、実在および実在のうちでも最も光り輝くもの、つまり善を見ることに堪えうようになるまで、導いてゆかねばならない。（プラトン）
- ② あらゆる欲望は不足を前提としている。そしてあらゆる不足はつらく感じられるものだ。したがって、われわれの欲望と能力の不均衡にこそ、われわれの不幸がある。能力が欲望と同じだけあれば、それは絶対的に幸福な存在と言えるだろう。（ジャン＝ジャック・ルソー）
- ③ 言語はすべて、同じ誤りを証している。われわれが習慣的に、石だとか、惑星だとか、動物だとかを語るときには、あたかも、そういう個体的事物がほんの一瞬でさえ、それ自身の本性において、本当はそれの必須な要因である環境から分離されても存在しうる

かのように語る。(アルフレッド・ノース・ホワイトヘッド)

- ④ 夏草や兵どもが夢の跡 (松尾芭蕉)

2022 年

- ① 悪徳はいくらでもたやすく手にはいる。そこに至る道はなだらかで、悪徳はすぐ近くにある。しかし、不死なる神々は(人間たちに対して)徳の前に汗を置いた。そこに至る道は長く険しい。はじめは起伏が多いが、しかし頂上に行き着けば、その後はどんなに困難でも行き着くことはたやすい。(ヘシオドス『仕事と日』)
- ② 世界を合理的に見る者にとって、世界の側は合理的な側面を見せる。その関係は相互的である。(G・W・F・ヘーゲル『哲学史講義』)
- ③ 生きていくうえで大切なもののなかには、商品になると腐敗したり墮落したりするものがあるということだ。したがって、市場がふさわしい場所はどこで、一定の距離を保つべき場所はどこかを決めるには、問題となる善—健康、教育、家庭生活、自然、芸術、市民の義務など—の価値をどう測るべきかを決めなければならない。これらは道徳的・政治的な問題であり、単なる経済問題ではない。(マイケル・サンデル『それをお金で買いますか』)
- ④ 下手な真実なら知らない方がいいのに。(三浦大知『仮面ライダーエグゼイド』EXCITE)

哲学エッセイを書くにあたって

(倫理哲学グランプリの課題文の後にのせている「心構え」)

哲学エッセイは、学校でよく課題に出るいわゆる「生活作文」(生活の中で体験したことについて自分が感じたこと、考えたことを書くもの)ではありません。そうではなく、ある問題やテーマに関して、自分なりに問いを立て、様々な角度から考察し、筋道立てて書くものです。評価のさいには以下のような点が重視されます。

- ・ 選んだ課題文に含まれるテーマや問題とどれくらい向き合っているか。
- ・ そのテーマや問題についてどれくらい深く考え、理解しているか。
- ・ 自ら問いを設定し、それに答えるべく論じ、結論を出しているか。
- ・ 主張や意見を述べるさい、なぜそう言えるのか、明確な理由を挙げているか。
- ・ 具体的で分かりやすく、説得力のある首尾一貫した論述になっているか。
- ・ 反対の立場も検討しつつ、自分の立場をはっきりさせて論じているか。
- ・ 自分なりの論点や考えを含んだ個性的なエッセイになっているか。

こんなことを言われても、実際にはどうすればいいのか分からないかもしれませんし、これらのポイントをすべて満たすなんて無理でしょう。でも、書きながら迷い、悩んでください。それでもチャレンジするのが大事です。

代表選考会 課題文

2013 年

- Let death and exile, and all other things which appear terrible, be daily before your eyes, but death chiefly; and you will never entertain any abject thought, nor too eagerly covet anything. (Epictetus, *The Enchiridion*, 21)
- We do not content ourselves with the life we have in ourselves and in our own being; we desire to live an imaginary life in the mind of others, and for this purpose we endeavor to shine. We labor unceasingly to adorn and preserve this imaginary existence, and neglect the real. (Blaise Pascal, *Pensées*)
- Egoism is selfishness that takes one's own pleasure as its goal. This is the polar opposite of individualism, for to give full rein to the material desires of the self is, in fact, to eradicate individuality. (Nishida Kitaro, *An Inquiry into the Good*)

2015 年

- The meeting of two personalities is like the contact of two chemical substances: if there is any reaction, both are transformed. (Carl Gustav Jung)
- Is there any knowledge in the world which is so certain that no reasonable man could doubt it? (Bertrand Russell)
- If it were not for injustice, men would not know justice. (Heraclitus)
- The aim of art is to represent not the outward appearance of things, but their inward significance. (Aristotle)

2017 年

- We do teach the truth by deception. We are deceivers, yet true. (Reinhold Niebuhr, *Beyond Tragedy*)
- It is not how things are in the world that is mystical, but that it exists. (Ludwig Wittgenstein, *Tractatus Logico-Philosophicus*)
- Education, therefore, is a process of living and not a preparation for future living. (John Dewey, *My Pedagogic Creed*)

2019 年

- If Shakespeare never existed, he asked, would the world have differed much from what it is today? (Virginia Woolf, *To the Lighthouse*)
- If you see what is right and fail to act on it, you lack courage. (Confucius, *Analects*)
- And even today this tale has a truth to tell, namely, that wherever a State has a mortal, and

no god, for ruler, there the people have no rest from ills and toils. (Plato, *Laws*)

2021 年

- Although the young may be experts in geometry and mathematics and similar branches of knowledge, we do not consider that a young man can have Prudence. The reason is that Prudence includes a knowledge of particular facts, and this is derived from experience, which a young man does not possess; for experience is the fruit of years. (Aristotle, *Nicomachean Ethics*)
- Those who know nothing of foreign languages know nothing of their own. (Johann Wolfgang von Goethe, *Maxims and Reflections*)
- Man is always prey to his truths. Once he has admitted them, he cannot free himself from them. (Albert Camus, *The Myth of Sisyphus and Other Essays*)